宗貞記

序

いまを百年乃むかし一東ハ芭蕉ハ草
元禄の露あり破顔ありといへども一
味乃雲母さまりて吉野紫の花を顕
風雅の實あその後のこゝろ高く壇を以て於
比芽出け久川をみ奉る綾ゝ地ゝのめくる文
をもれこゝろ拘ある流行はきまとし百年
時思展てあらゆる轉恩ハ集法る

能登鹿島
高田私設
圖書館主
三枝昇純

書院の引接堂を面白く造りなし
ぞ出ろ出ろ　中ごろ渡川長
慶寺と書の昔箱の遺墨をしり
めて雲うん流霧白堀と杉風老人の
ゆきてめ　旧跡あれども津軽の
貞松吟友を會し　懐
旧の俳話をいとなみ　諸家の句
を引抜いて集りあむけ　貞松

遠き郷土をたづねて都下に門生民
ひきゐ　風雅を引抜むとし
此地に杖をとめ　此時にあへる事は
こゝ抜きに　同好に生むいを
へるのとるや　此集を祭を　佛と
なる吏ハ文鏡に出ふる箱の詠
ふりと　成義　歌号をおを
あに我菅小根小財の為ひまに　雲

よく芭蕉佛の功徳を平等法雨は
しるひきとれはしてすへしき草
の臺ありと人をあそびしめむをも必ふ
ら生ぬわれ世に此俳ありて時ありあ
へ難同しく語る程を拙きをわすれて
霜は加れもの滴を老象を好みして書
寛政癸丑冬十月　勝花堂進隨齋成美

俳諧一順　於深川長慶寺

百年の気色を庭の落葉哉　芭蕉
袖うち合は霜野路風　貞松
徒然には物よむ童打連て　心坊
あられ降ける竹の根より　松九
伐株に菊を植し小宿津　吉石
松のしん筆男家を持ぬる　耕言
八月の白着を貝に眠るらん　菊明
秋さまに似たり蝙蝠も出は　白邦

蝶は長崎の蝶　左鶴
婚るこのもの　書取
こと理を備へ　延祭
ちさらさる冊果　風化
生業をれと勝　松下
はつこの巣ふ　うな
住まと繁下出　馬仏
さほんのをうし　魚尺
風はまんとは春　卜木

山のつこの巣の星　石鳴
のち層をちはは雑面　吟石
猫はをうの馬力も　貫水
蕨しは史の鐙の来　古汎
只事時もこ月は宮　些柳
太素に彩人ををうし　素淩
ををし亀をし君ふ足　白知
ふこはをさ力はけも　巻舟
答はは利ハ若ふ傾き　素石

30

東雄
鳥秀
菓北
芳春
成美
宗讃
春蟻
芝哉
仙蓮

40

寸乗
斗入
観寿
秀孝
鬼篇
巳録
福長
行風
茶花

鯉鱗　巳接紙　曉烏

初雪の降るを受け来る風
門をたゝれて五形歌を　貞松

晴時の剃髪に指さし時雨に　〃

十束たちの蝶を裂くを　〃

月の酒たゝみ雲雀　〃

50

おもてなく初嬢と毋の　松

手無の少弾琴道　〃

たゝみんこと来時と義　〃

猶文人事とも　〃

初月初の百姓さま　松

芋葉を紅毛絨ふ　〃

安ゝ所ぬ雷花分　〃

同春の神命に時下川　〃

米とも松鳥松時さま　松

猶花を安ゝけの三度栗　〃

60

ゝ下ゝ雷ふ湯ゝ神へ　〃

初月の頭をたれた国方ゝ　松

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松

ちらちら見ふ別るわりちさ　う

、　うの玉亭にて

眉山

鶯の聲よりも深く春の雨

蓮翠はたらふ霧の日のそら　加玉

張まり立かも掃寄ふ角角さ　、山

立ち立ち鐘も風ちらむと

月ふ雲る弱々き春の光さ　、玉

入り行むうする船も知り

伊城ふ謎のける梨の秋を　、玉

掃塵ふ憂ふ雲ふうる　、山

春雪の積ちる梅花　、玉

曉　枝ふ春の光ほのうちる

梨花ふ利ふ烏帽子傾く　、山

梨ふ折る宮島の神　、玉

誰義を爲ふ遍を竹のそ道

庭ふ散ちる○蓮　、玉

於ふ法ふ桜車を引き

仮鮎買に人多ち月　、山

扇ぬぎ捨てゝ涼みをつゞる素の風　玉

竹芋の植ふ猫たちを寄　山

ふる雨の庫裏に黄昏て　玉

蚊帳の中の坐ちる蝿の声弱　山

無思に捨てる匂ひ咲ひ　玉

眉うつゝ目ぬ雨ハあやなし　山

法華に唱ふる念仏法華　玉

ちる中ちる列鳩のしゝ　山

松嶋ふ思ふつゝる草ちる

露垂く油ぬ月ふおもてき　玉

木蔭く古ちに白ちる秋の音　山

買新ちん新鑑の萩　玉

ちちの野の星ふ酒ちく　山

七八軒ちる風ぬ立ち　玉

漬ふ野ふ月ち稲ふ星　山

人ぬ親ちもの過ちる　玉

蟹ふ紀のち振ち原ち蓑ち雲

茅ぬ仏ち野ふ白く

菜七日傍き桜の咲初て　山
そのまゝにして多めにけらひ　玉
、　季鳥
葉紅葉や磯山おろし風邑　加玉
日は吹よりに衣縫ふ雉　、
錦様鞍守少年の華やかさ　鳥
雲あをく移捉えに行り　、
玉の新静まる新月に　玉
浪ち印ふ笠ね露ね松ちと

あゝ深く先ちその紀美さ　、
鐘ね鎗うらみさをしぬる　鳥
聲ね徳おも書ね世の姿　玉
おもね新か勝る断　、
山里ね水沢しの音深て　鳥
あらしをもて藻の綾姫　玉
人ね身輕か出る秋ぞし　鳥
目の夕を宮ね描くかな　玉
秋風の一月對すあかへく　、

無うらやましき恵の秋川　鳥
桂進の男も雲の雲の雲　玉
香書く　繁に　蜂の紅る　鳥

、

乱れ髪　綾の袴ぶんぶん　青柳
乱れ髪　ゝ　青の車　柳
青山の小笠の青桑　矢里
茶　ゝ　童　ゝ　眠　柳
人も来ぬ雨の陸の月に　柳

原ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　里　文
時ゝ　ゝ　ゝ　八吉井　柳
笠の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　柳
太　ゝ　童　ゝ　ゝ　文
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　柳
松風　吉井の　町　柳
海　ゝ　ゝ　月　文
鐘　ゝ　ゝ　暮　柳
海　ゝ　青　ゝ　ゝ　柳

清仏を造る巖を穿く　文
宣台を植る苔を重ね　柳
菊黄に七十の秋笑を　柳
借問す主人何の日か　文
酒を尋ねの酒盃を　柳
人生まるるもちろんの貴　柳
物羨ぶ額集るさし笑言　文
告げるしるしあるかな　柳
ほろほろと朱の溝の雛黄昏　柳

雲を踏む強る乙筆一すぢ　文
道の八百里と言ふ厨川　柳
元の夫を梦くやさの肩　柳
雖ぬふ芋の姫路を指やん　文
仰ぎ筆ふ月清きさ　柳
風幕る形芋ふ鐘の秋　柳
義人為る雲の毎逝　文
もてけも只のさみの待を　柳
皮ふ烏床ける　柳

恵生の過る横を跨がせ　文
矢立ふ　はるる名残のみ　柳
古菊といふを過ぎて墨田　柏
新たなる雲の行くえ　文

170

旅雲柏亭

暑さわけ野に果て日八分　眉山
鳥も道なき　椎を交ぜ　涼化
寺を出ずして寺に留まる　眉山
戸むしろ　ふくに秋を重ね　化

畑なる　鶏　風の月　山
流れもうちを　袖ふ手の　化
おぼろに　鶏　知に寄せる　山
鶏鶏に　きく　化言しく　化
むく記を　陸ける　烏啼　山
旅りの　佛　何ふ　こうさ　化
不二に　雪　橋の　技ふ　見る　山
鶏　ちの　ふ　鶏の　しう　化
よ　兵　旅　ぬう　帯　化

180

山

雨もよの月の風もなつかし
さ蔦る葉もものむしろ落ん　山
ちりぬる蘭の花に英芳香　化
思ひし郭公　雲の月や　山
まちわくさあの麦うゑく　化
鎖尖ちる春の柳の朝清め　化
190
身はちりぬしの眉もしきる　山
古恋をおくりもしも行便　化
御者の嗅に暗うくし紅　山

浪こしふ鼎鐘の高ふ風荒て
人喰犬や　犬のあせ清
松の葉のもみぢに遠北日月
遠のこ雫けの粮ゆん　山
鯨鯨のこぼるる雪の紫カ　化
地をする袖ふ笛浦ゆり　化
口ふ葉や鑢ふをすず反遠　山
200
陸うゑの雨の跡こちなる　化
舟ゆくら刺根の行の松筏　化

人十歳ばかりなる山の寺に
うちつれて時雨庵訪ひ門叩く　山
ものさびしらなる老たる僧
酒の書にうちの窓の孤燈に　化
夜ながら一つ点ずる茶の煙　山
うつろひ

貞松　化

試に針ふ秉ひし浦の秋
夕べ色色に時雨ふる　華
濃淡ある松に時雨月冴て

畫面

、

もみぢ日ごとの清景を惜く
紫むらさきの園に有て牧の屋
さしもあれ新ちぐさ水　松

會正風道場　面

、

仲秋の黄を照す高き所
時雨に蟲ちぢらぬ一切　貞松
雲ちぢらぬ男体中腹くん　琴石
君智の色鞠ちぐさし　楚鳴
月見ぬる暮の夕ぐれ　素友

文演

[illegible]を歩む摂津
榮者嗜服[illegible]秋の来て　溪
服妻[illegible]贅申[illegible]　松
[illegible]　石
[illegible]　嶋
[illegible]　友
[illegible]　溪
[illegible]　松
[illegible]　石
[illegible]　嶋

[illegible]　友
[illegible]　溪
[illegible]　松
[illegible]　石
[illegible]　嶋
[illegible]　松
[illegible]　溪
[illegible]　石
[illegible]　松

諸家を思ふる彩の蛾口　嶋
夕雲の紫流るる弱の松　友
時を知る時雨ふる鶴鳴く　溪
眺望の月まも人を偶さき　不
搭載く青松の獨立り　松
ゆむしの夫金の融の巣を宜　嶋
汐干く松の鶏鳴くなり　友
如何くを迷うの沖を望む　溪
鳥帽子のけ反酒の呑み様　松

240

立倉山の印戸の山を望の義　嶋
二月三日　春も惜ふ二月　友
四方を種針を拔き　不
二月三日　陳生の月　華

文錄生知山北部の義
おくらを安堂
ものを庭の遠の意　黄蕉

貞柳の如し老蘇翁の
句の通俗を変ずる
ことの如くハ作る

250

ちちはゝを中のしたしきものとなす
老翁ちゝ翁を新の月
面新とちゝむ月のしたしさ
百年ちゝの名の紙にかゝれ
りの人のふるこうぬ附ける新
附ちゝ翁を俗と通

真何
仏坊
松丸
青白
附言
菊明

260

木こりしの如き通塩ゝ
初しくしを虎ふ取ちの鳴ふ
世ちの笠ちゝ附ゝ新ゝ
百ちゝ心ちゝぬ庭の長ふ
十四の松風ちゝしを城塚
新ちんちゝ中の新ち北玉霊
新ちゝ翁の月ちて名ちる
ちの俗ハ新しちゝの名ちゝ

百柿
百寿
老鶯
青取
蓋祭
風化
松下
ちゝ安
馬仏

270

魚夫
卜木
武ブカヤ 石陪
江戸 時石
津カル 貫氏
古仇
世物
東陵
江戸 白知

280

光鮮
青石
東雄
雪麦
巣北
芳春
成美
宗憲
春賤

時分寺参詣ス年の寄月ス
新宮し也ス伊川の時分寺
朝しる是茶を与ス廿十二日
年の日八一おしふ茶を与ス
百姓ス佛参ス(建)佛堂
中むらの人の寄ス時分ス
初参ス初ス初ス(むこさ九本)
古人ス参ス寺ス塚の前
初参ス朝記ス又伊戸の所

生駒
加藤
十兵衛
外入
新書
秀吉
桑名 鳥篭
巳蔵
伊戸 猫長

伊勢
茶九
白鳥
いろ
記ス
ス

武蔵ス 寺濱
フカヤ 左門
寺の

ス舟の上
見ス見ス時寺ス家ス
百ス寺の濱ス寺ス少寺の人
のよりス武新報ス時ス
新寺のしる是八人ス寺ス
ス茶ス寺舟ス寺ス雪の
十月ス寺ス月ス寺ス道
見ス寺ス寺の柱のス塚濱
寺の寺ス新ス寺ス

漢詩ノ体
通シ番号
ヲ抜ク

上モシシロシ 鶯秀
岩根
山色
玉ムラ 巖竜
下二タ、 鳴鳥
貞松

310

カ、 弓傳
宛文
臣井
拳恵
梨松

320

雪融て
はるかすみ
あ雲小道八
初雪
蟬小濃る
雲の
梅雨晴
こ
雲むら

春深
花見
の集
寺
恋
練
名
作言
野山

330

月の
橋
さ湖小
ち
湖
月
雪
大漢
雲
雉笑
山
鶯
雪山
山
葉尾

後人の書入

猫の子や月の朧にまよふ声　嵐古

葉桜はいちごのまじる大根川　朶山

茶垣や荳花咲く蝶の通ひ道　杉光

川ぞひや蓼の茂みに川よどみ　一向

あつめしや末にて梧桐の声　蛙井

あらたのや田舟の杉の若緑　可加

茶杯の下すすりや青嵐　竹年

芦とともに涼しくなるる兎かな　春細

錦帯や露の葉切りてあまる　更々

旅人のあとにかくれる茶かな　杜山

指傘に蝶の巣をとる白雨かな　一九

此月夜や蛸くれがしに鷺　佳之

すゞ風や紅葉に落る木の皮　岐水

山寺や茄子畑に梅の花　槐弥

猿荷羽風涼しく猿ちる星　桑萼

朝かほに種ちる軒の紅葉かな　肆蓮

糸瓜や桂葉なく前にゆる　白示

もてなしに紫を結ひし雨下りかな　、

あさゆふに菊の花さく紫かな　菫小

朝日やさぬれくさる秋の月　、

[illegible]　寺貴
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　文濱
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　眉山
[illegible]　弓楽
[illegible]　松菊
[illegible]　ノト　秋ト
[illegible]　クワハヒ　李濱
[illegible]　大牙

[illegible]

三八五 長陸

書書

カハタ 佳起

方生ツ 大國

二型

白色

相木 佳材

城端 嵐芝

巨山

[illegible]

越中福ヒテ 賀山

加玉

、

白羊

知永

吉石

友江

秀芳

越後十日ヒテ 宋美

[illegible]　　露雪
[illegible]　　史彦
[illegible]　　友蘭
[illegible]　　六朋
[illegible]　　素脇
[illegible]　　祖明（タカタ）
[illegible]　　、
秋風も　莽の[illegible]　　長物
松の枝[illegible]　　沢馬

[illegible]　　史洲
[illegible]　　仏星
[illegible]　　山蘭（アラヤ）
[illegible]　　、
[illegible]　　秀之
[illegible]　　時来
[illegible]　　、
[illegible]　　波夕
[illegible]　　芦夕

[illegible]　銅白
[illegible]　歩箭
[illegible]　也等
[illegible]　秋巳
[illegible]　苦芳
[illegible]　[illegible]
[illegible]　この夕
[illegible]　芦江
[illegible]　荷藻

[illegible]　相[illegible]　書[illegible]
[illegible]　、
[illegible]　主柏
[illegible]　、
[illegible]　、
[illegible]　文星
[illegible]　如菖
[illegible]　貞愛

[illegible]

長和
東枝
杉朝
不曲
秋田
方壺
錦河
書風
柳枝

[illegible]

砂石
山和
石堂
蛟休
勇和
柳之
湍水
十洲
松柯

[illegible]

、 [illegible]

、 九沢 里翁

ハンモト 素仙

ミヽヽス 白河

芙山 心月

亀毛

時風

[illegible]

不故

祇秀

祇亮

東弓

梅更

昔亭

クニサカ 瑞[illegible]

養亜

コサワ 柳泉

野社に鳥居ある里松の雪　ハンナウ　芦丈

松の声に月のこゝろさらに　里旭

我身をも振出すゝきにし　如卯

うすすみに尾花の桜人の為　祖元

しら萩や空は晴ても露をもち　イツ人　採燕

頭ふく吹ぞ草こそ　サルシマ　丈永

蓮の葉に揺く動く微風かな　以貫

廃鐘にある川ぞ白き　上毛ミヤサキ　富春

稲妻やあらけ好秋の草の中　凡二

夕暮し花の葉垣に浄井に　玉文

亥の下に行秋となり静かに　佐意

墨引く白の手拭たるさらに　許言

花刈や嘶る振ふ事さく　才丁

紫の草は萬の鏡や露　朔守

草荻は身に添ひ露振　タマレイ　南浦

雲の峰限りなき空の上　ソノミヤ　残月

高砂の松の雪の松　[illegible]

うき達ある扇に[illegible]なかに　[illegible]

雪解て　鶯の聲も　なくなりぬ　洲朗

ふみわけて　百舌の　しるしを　拾ひけり　紫宮　南楼

傍らの　花の　したたる　ちる　夜かな　下二戸　仙朝

さくら哉　藤の花　花々　芳野山　州谷

摂津の　富士　嬉しき　雲　流れけり　千篠

月まし　春の　砕く　松の風　松史

朝の月　すみ　嬉し　庭の雪　小州

雪ふかし　月　かけ　日の出より　芦穂

星の網　夢の　春の月　暁了

今も昔の　月の影や　巧なる雪　キリフ　菊尼

此菖蒲と　伊太　書し　雲の峰　楓月

春や　流　ちる　短机　雲井　素籟

碌々や　すゝ　桜に　鷺　大ツカ　江水

月より　鷺の　悟也　双鯉

ねもん　像　流の　露　鶏穀

こゝろ　古流の　落蝶　孫舟

郷に　和　武本庄　双鳥

花の　櫛　本　湖白

はなの月見えて湖白や山かつら　李明
賣もに夕日のさゝく紅葉かな　一馬
打鶴の降る舟出の人の寒さかな　ハシ山　涼化
ちるはまた葉八月にけやしき夜の山　寿
秋の色や月の物見ま秋の空さき　、
郭公ちる声山も里秋明けり　蝶兎
夕への涼や廃屋もまた秋の賈　此雪
山陰や秋を鳴の明けきりたる　イヒ　輪
百もとや鈴鹿も幽山迷ひ哉　金久木　檜曾

寄る夜や草の姫もへのふかき哉　萬什
昔もとを碑に見ゆや油色　民友
そのかや百年の碑にとりける　伯向
此自然にうつるハ河の古塚　爾来
物云も隠しさて此月に　川風
百年やふるきの夢にゆめを覚　テシカワラ　伏言
二本しも髪は切れも残秋の風　フカヤ　幸山
山路出てのこけむす明るかな　孤月
七ちさぬ秋萱にもたる人　ミヤシタ　芸丸

[illegible]

土佐

ハエシ 星布

フタ 白波

、

、

小山 源洲

、

小山タ 公文

[illegible]

ハエシ 風梧

相イリヘ 物部

吉波

上ミソ 宮水

クサワ 里鶴

十百市ヘ 貫口

フカミ 渭文

カニクラ 傳弓

元亨の頃なるべしと云ふ説もあれども像
風流を用ひられ時代を考へ
合せて鎌倉時代の作なる庚申
塔なれば如何なる場合無之
世上に流布も禁制さるべ
き筈なれども面白く繁盛
する時代に相応あるべし
初冬に杉風の肖像
庚申の間に美しみ見る
ものなり

百姿
杉谷（ハセ）
冬籠（フヂナカ）
一滴
梅里（千石間中）
百尺
九日
芭蕉（生歳八）
杉風
サリ如ク

嵐の音時に杉を伐る人
鈴の音ハ高き谷陰の日暮
白雲の夢やうるめる松の山
松の上や星なき夜の朧月
朧月や新小紫の雲
雲なき高き空の月
高き空の月や晴れまく嶺
嶺月や晴れまく嶺の
峰の月
松の
天橋（トヤキ）

名月や潮満てる物の音　探川（蕉門）

素秋や二つ四つの小さき車　〃

雉啼や出入の子の松笠塔　〃

村の秋のきぬ物を干ぬ物　〃

むら雨の跡ぶ時雨の夕　東昇（吉水）

一雲木下闇なる花の本　一蝶（アカミ）

夢覚る人や夕の寺鐘　巴江

夕月やしらき雑色西の方　雪江（常太田）

知アや坊長の高根の和　春貞

春情をくめん雲の面影　天青

信を人ぞ知の曙外　文思

坊の雪のあ小つ雲の雪　三志

人ぞ知ぬ恋ぞ知ぬ雲の外　市東

山陰の小ちさき梅の香　壺順

春ぞ来る蓮の柱葉の風寒　李冠

雪ぶし樽を出る鶴の音　朱城

冬籠友の来ぬ日を叩紙　紙石

冬も大の酒を八言中の月　魚平

萬川
印旛
筑波
水流

、
泉水（ホド）
三日坊
五峯（カクタ）
若泉（ニウ）

、
、
、
浦和
以文
翠色（ヒガキ）
再の
蘭分（下総サクラ）
東清

うしろとも見し修行者よ鳥かな　魚文

肩衣ハ様よく封じておぼろ月　丘幸

月よりハ日におぼえし雪の猿　著東

此風ハ新緑の梅や赤き花　英乘

鶯過る江の松も雲しく萩の原　文孝

梅ちりてハ一面あかり春の雪　松月

朝もやにもうちより乙の若菜摘　、

名月や旋る旋の見ちかな　紀董

風ハ春をまつ也山桜　湖梧

よしや秋に今年の花も盛りぬる雪　桂夕

笑ふて柳も笑へ柳しまは　蒋舟

神の子に野風に猿さへ言ふ　南舞

おもへば星もこほる清しれんの柄　幸所

侍の梅さしてえの外の家　子道

空にもしおお葉の刈株　南塘

高原や春をとりとみし風の花　、

依しく寄り桂さくら南の爐　、

秋の花あの生出ぐ人寿き豊也　、

[illegible]

蕎麦の[illegible]の月　如昇

[illegible]の[illegible]舞なる[illegible]の[illegible]

[illegible]　重富

[illegible]　房丁二ノ　梶葉

[illegible]　イソムラ　傳風

一里[illegible]　夢多ナクラ　老鶴

[illegible]　花的

百[illegible]時や[illegible]

菊酒[illegible]田都の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅枝　白貢

中五井　休紅

今津　芝雀

、

、

、　傳書

蕉雪

巻ノ四を選び奉る

宗祇

月ハ雲ヲ出テ雲ハ月ヲ隠ス

眉嶽山帰ル見テ横雲

ナシテ雲ヲ残ス月

横ノ雲月ノ横ノ雲ヲ

在二人ノ思ヒ乱レ

画ル横ノ白ヒテ雲ヲ夕ヲ

芳ヲ捨シノ芳ヲ

四海ノ雪ヤ春ノ雪

心英

羽たけ 素風

雲楯

この風

アキメ 五明

吾長

奥ハカル 冥庵

五東

五英

ト貞

英見

呉江

蘭雪

巴光

金花

貞石

皓

文石

陽炎や舟さく浦の篝屋　亀文
京舟や樗一木の茶ちり　九鳥
老二人の天樂ちり枝のもの　横成
秋風や鉄瓶借て来法師　ナンプ 一草
雪の日や春を見せたり仏の奥　甲友タ 漢南
名月や扇ふ写る波遠ま　作長
勝もこそ名月ふて玉祝　ヨ歌里
芝とれハ現も入梅の白ル　ヒシコフク山 李朝
人丸や小時ふ子の目　ヒコクヘモト 亀谷

ふ子の涼菓子ふ清ふ蔵り　欣霧
橋ふ山ふ陸ふ月ふ秋　ヨソリ 士朗
桐の実のふ実ふ屋の秋　仙夷
涼のふ人やふ子の猫ふり　信 猿左
如何ふ子ふ涼ふ月ふ　文窓
い童ふ名ふ葉の家ふ家ふ　家紅
風のふ子ふ明ふ月ふ秋ふ　長アカ一セキ 蓋里
地ふ月ふ雲の居ふ雨ふ　星紅
ふ子ふ蛍ふ月ふ風ふ　イカ 理玉

未春　サンヒルカメ　一壺
和コウリ山　白し
大坂　華英
ロホロ　張州
湖石
青楓
大津　梨風
井子

五来
上寒雲　ヒニコフク山　一聲
サンコンヒラ　羽丸
エチコホリウチ　徐々
ムラヤミ　掃溪
ヤ　朝舟
希周
ワカヤ　陶河

あたゝかなりけるそれをもつの鐘
夢さめて　夢のゝこりあるあり
ぬれん袖の露ふかし秋の夕ぐ
さもしらぬ海やそらふる秋の雨
夕ゝ来ぬく星の　梅の香
星あれて雲きさもしや秋の風
雨の秋　あハれらふやもしらり
山路や少雨　さる日の旅もよし
豊かん水さ　この夜の月や後の月

京

如流
子敬
土卯
月峰
唐夕
芳涯
加菊
虹光
いちり

和雲
梅子
耕や
林果
枝の
雲の
廿四
廿四
雪の
廿四

の梅
芳華
ゝ
九江
東蓋
明の
晴嵐
蟬雲
周文

呂

糸屑にしめ色あせや星迎　涼袋

きりの葉や上手ころさぬ箭の音　甚化

さし竿やさし竿来ぬ小鳥の図　白雄

夕取りけむらるゝ綱も小椋拍　園丁

菖蒲叢夜振てさしうて　也舞

紅梅や白晒にけし庭の履　素隠

白帯の葉にも揺や香の露　素昌

破れ小竹さしたる川の蘆花　葛三

ほとゝきす角こえ松風や　一蝶

駒の手に水にも切る夢の法　蒔亭

芭蕉の雨冷子をさしや系さらし　圖志

ところどころ雨くくりや細江　檍丸

あかまへて蛤釣や市の江の瓦　銀高

菜の花や七里法花の人通り　春樹

照らさぬに酒屋の男哉　五朋

梅の木や色よる贖に線まて　まり

紫苑咲や月と起て中の猿枝　鳳化

ほとゝきす猶ふく降あとか　鳳秀

良枝長[illegible]　[illegible]

[illegible]　貞松

借[illegible]　[illegible]　言

[illegible]　[illegible]　松、

[illegible]　言、

[illegible]　松、

十日[illegible]

夕昏を[illegible]

暗門ふ雨[illegible]　入

[illegible]　伯鳥橋長り

[illegible]　翁

[illegible]　赤伯

[illegible]　貞松

[illegible]　伯

[illegible]　松

[illegible]　伯

[illegible]　松

[illegible]　松

[illegible]　松

憂喜を唯うるとを吟ぜ
生涯拾る所栗雲の秋
ほとゝぎす空低くなりぬ
住いるもの月ふ所の清り
太川はもさ[illegible]ふ蛙鳴く
草鞋もたゝぬ男そむ
夢もあ[illegible]朝の門民
ものゝ井戸を宮つゝ
限るも明るも老のさら

白
松
白
松
白
松
白
松
白
松

力さゝもの早蕨をとる
仁和もの寡あ限く原の春
九つにしる柳の日のあ
荻巻も當帰もあるあ
ゝゝやすさハ物ゝぬあ
室の津ふゝと桜さ白髪見
柳も樓も住ほむ十月
雪の野ふ以草を立る猫をり
二杯限ふ酒のゝものゝ

松
白
松
白
松
白
松
白
松
白

清の道蝙蝠の角の磨を出
ひとしらふ雲の滝の中を
端もなく蒸のうき橋の月
美ちくのもの見の富町
さしあふ額ま新を借りて
思ひ物やりの仲撫めう
雨の上の八幡ふ帰
右もたも風吹くも法
老紅葉紙うる童立まる
風まとのよとうちふ

松
柏
松
柏
、松
柏
松
華

載クタタ
アハ
弾中
玉屑
書政
京
出芳
邑
聖意
柳枝
白用
希言
巴山

雲の外ふ姿ん立ち和歌ふ
清とまを紅葉の世ふ雲物る
雲ふ月も賤拾ハ月の名を
初雲ふもうもうもうもう
雲ふ月八雲ふ秋一枝
山の端や新蔦のぬ清の月
名を立通りのもハ松の月
葉の色や砂所ふる立雲
雲ふりや指の雲紅物雲

さしかき文これも心に紀友
のりは一石一字の妙理を道
けりとし敷島の文なりもと自
然にされハ是にそ道的
まめなるを書まするとそ
よろしからんやけるを此集の
歌なりけり妙なる哉加ぬる
雲の峰法花経を見れ見たまらん

貞松

荒角や庵の帰さ浦の浪　　宗梢

初蝉の声やうつれの初しぐれ　　、

名月を守る八風情たる録那　　野涼

三日月にほしときの光かな　　九應

ノトタツハヽ

新盆む波静也露の月　　寛風

秋の来や枸杞楼の松の音　　帰鶴

けさ秋や稲妻の風りか　　暁川

つるしし燈火の宿る光かな　　卜雨

名月の帰るさ海の浮雲　　几圃

曉雲山
廣尊寺

[illegible]月の光やあらしの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

由之
刺笑
答枝
そハ
むい
雨ト
文路
李月
大牛

高田宗尊寺
三枝文庫印

西風之詩二部尾
白尾橋廣小路
圭林　松平雲州
彫工　信甫刺印

[illegible]